

長髪問題と

現代つ子氣質

生徒の頭髪について、襟や耳にかからない程度の長髪を許可する方針が打ち出されたのは、昭和四四年の三月である。それまでは、坊主刈りの伝統が守られてきた。

旧制岩手中学のころ、坊主刈りは当然のこととされた。何しろ軍人の頭がそうであり、社会的にも若者は短髪にすべきだという風潮であった。戦後、新制岩手中・高等学校として再出発した際、あらためて生徒の短髪が規則として制定された。物資が窮乏し、制服を揃えるなど思いもよらなかつた時代であり、せめて頭髪だけはきちんと短く刈つて清潔にしようという声があり、生徒の側から持ち上がったと言われる。

しかしその後、長髪問題をめぐって、さきやかな自由を勝ち取ろうとする生徒側と、あくまでも規則と伝統を守らせようとする学校側のあいだに、長い対立の歴史が続くことになる。

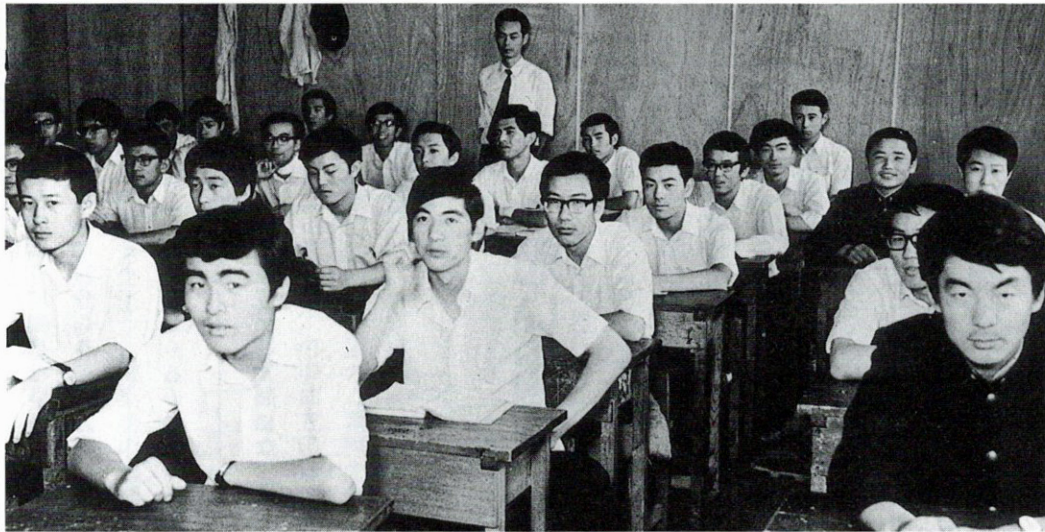
たとえば、昭和二六年、三三年、四〇年はこの問題への生徒の関心がひととき高まつた時期で、署名運動などが展開され、生徒側と学校側の話し合いが持たれたりした。けれども学校側は、学園の規律を維持するためには短髪の伝統を守るのが望ましいとする態度を一貫してとりつづけてきた。

たかが髪の毛の問題ではないかと言つてしまえばそれまでだが、生徒にとつては、学校側が個人の自由を認めるのか、それとも高圧的な態度でそれを弾圧するののかという基本姿勢に連なる問題に思えた。学校側は学校側で、六〇年安保闘争のころから活発化した学生運動の影響が

一部高校にも及ぶという昭和三〇年代後半の状況に、必要以上に慎重になつていたのかもしれない。

さて、昭和四〇年代に入ると、全国的に高校生が長髪がごく当たり前になり、盛岡市内の高校で短髪を守りとおしているのは本校だけとなつた。そしてこの問題にもいよいよ決着がつかれる時が来た。昭和四三年度後期の石桜会（生徒会）執行部は山中校長と粘り強く話し合いを重ね、ついに頭髪自由化の許可を得たのである。この間の事情を当時の石桜会会長は「石桜新聞」紙上でこう説明している。

「終戦直後の先輩が石桜精神の一つの形として短髪を行なつたのだが、近年その再検討を望む声が強くなつて、我々も数度校長先生と話し合つた結果、先生としては生徒会の力量を信じて（頭髪の自由を）許可して下さつた。三月一五



長髪許可がおりて(昭和44年)

日の事であった。今後我々は自由化されたこと
によって悪い気風が出て来ないようにしなければ
ならない」

たかが髪形、されど髪形。現代の若者にとっ
て、髪の色は切実な問題なのである。

※昭和五三年に発行した「石椋50年史」の一
四三頁に「当時の石椋会会長は八重樫昌宏で
あったが、彼自身は時代を先取りして、すで
に個人的に長髪を実施していたのである。こ
の長髪族の八重樫に、二六年度前期の石椋功
労章が授与されたのだからおもしろい」と記
述されているが、「自分は生徒会長をしてお
り、先立って長髪などできるわけではない。あ
の記述は誤りである」と八重樫氏自身から訂
正の申出があった。

ところで、昭和四五年一二月に生徒会生活委
員会が全校生徒を対象としたアンケートを実施
している。このころの岩高生の意識を知るよ
すがとして、データを掲げてみたい。質問によ
つては回答に学年差の大きいものもあったが、こ
こでは全校としての数値を掲げる。

(進路について)

Q 高校を卒業したら、次のどの進路を選びま
すか。

- イ 進学 ————— 七五%
- ロ 就職 ————— 一一%
- ハ 未決定 ————— 一四%

(進学と答えた生徒に対して)

Q 次のどの学校へ進学しますか。

- イ 一般大学 ————— 七八・四%
- ロ 短期大学 ————— 四・四%
- ハ 夜間大学 ————— 三・五%
- ニ 専門学校 ————— 一三・七%

(大学と答えた生徒に対して)

Q きみはなぜ大学へ行きたいのですか。

- イ 教養を高めるため ————— 三七・八%
- ロ 他人に刺激されて ————— 五・二%
- ハ 大学を出れば何かと便利だから ————— 二二・一%
- ニ めざす職業に必要な専門知識や技術を
得るため ————— 三四・八%
- ホ その他 ————— 〇・一%

(職業選択の基準)

Q きみはどんな基準で職業を選びますか。

- イ 自分の能力・性格・趣味に合っている
こと ————— 三九・二%
- ロ 仕事がおもしろいこと ————— 一六・四%
- ハ 特殊な仕事であること ————— 九・二%
- ニ 有名会社または将来性のある会社で
あること ————— 七・六%
- ホ 社会に役立つ仕事であること ————— 九・三%
- ヘ 収入が多いこと ————— 一四・一%
- ト 親の職業を継ぐ ————— 三・八%
- チ その他 ————— 〇・四%

(生き方について)

Q きみはどのように生きたいですか。

イ まじめに自分なりの努力をする

—— 三五・七%

ロ 明るい家庭をつくる —— 一五・九%

ハ 有名になる —— 九・〇%

ニ 個人として立派な人間になる

—— 一九・二%

ホ 世のため人のために尽くす —— 二二・二%

ヘ 社会の指導的立場にたつ —— 八・〇%

(目指すものについて)

Q きみはつぎのどれをとりますか。

イ 金や名誉を考えず、性にあった暮らし

をした —— 二七・八%

ロ 世の不正と妥協せず清く正しく暮ら

たい —— 二六・四%

ハ 社会のために尽くしたい —— 八・九%

ニ 一生懸命働いて金持ちになりたい

—— 八・八%

ホ その日その日をのんきに暮らしたい

—— 一三・八%

ヘ まじめに勉強して名をあげたい

—— 三・〇%

ト その他 わからない —— 一一・三%